

抗 Taf10 抗体、ウサギ抗血清

62-015 100 µl

基本転写因子 TFIID は、真核生物の遺伝子発現調節において中心的な役割を果たすことが知られており、TATA ボックス結合タンパク質 (TBP) と 14 種類の TBP 随伴タンパク質 (TAF) から成る巨大なタンパク質複合体である。TFIID は、転写開始点近傍に存在する各種のコアプロモーターエレメントを直接認識して結合し、他の基本転写因子群が集合するための足場を形成するとともに、転写調節因子に由来する転写活性化シグナルを RNA ポリメラーゼ II に伝達する役割を持つとされている。Taf10p は TFIID サブユニットの一つであり、出芽酵母の場合、206 個のアミノ酸残基 (aa) から構成される。また Taf10p は TFIID と重複した機能を持つとされるヒストンアセチラーゼ複合体 SAGA のサブユニットにもなっている。このタンパク質は内部にヒストンフォールドを持ち、Taf3p, Taf8p とそれぞれ二量体を形成する。

抗原：大腸菌で生産されて組換え体出芽酵母 Taf10 (1-206 アミノ酸)

用途：ウエスタンブロット

製品の性質

性 状：0.1%アジ化ナトリウム添加抗血清

保 存：4℃で輸送、-20℃で長期保存

Data Link SGD [TAF10/YDR167W](#)

文献：本抗体は下記の論文に記載され使用された。

1. Takahata S et al “Autonomous function of the amino-terminal inhibitory domain of TAF1 in transcriptional regulation.” *Mol Cell Biol* **24**: 3089-3099 (2004) PMID: [15060133](#)

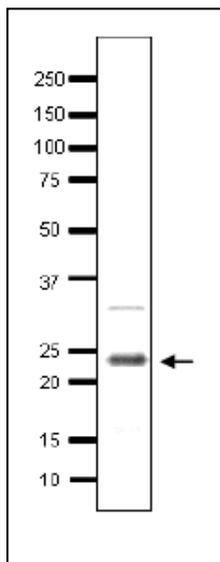


図1 抗 Taf10p 抗体を用いたウエスタンブロット法による Taf10 抗原の検出
出芽酵母抽出液 矢印は Taf10p のバンド
抗血清は 500 倍希釈して使用